

「徳島県西部圏域振興計画(第4期)」の令和4年度の主な取組結果

重点項目1 観光・移住・交流による地域活力の創生

中項目1 アフターコロナを見据えた「にし阿波」プロモーション体制づくり

評価シートP1 (No.1~4)

(主要指標)

- 「BtoCの取組み」として、SNS等を活用し、「にし阿波の情報を発信(受信)した延べ外国人数」は令和4年度に34,407人であり、計画目標(17,000人)を達成。
- 「BtoBの取組み」として、「海外の旅行会社、メディア等へのプロモーション・商談会の開催」は令和4年度に19回であり、計画目標(15回)を達成。

【主な取組内容】

○情報発信・プロモーション活動の強化

訪日旅行希望者(BtoC)に向け、SNSを活用した「にし阿波」の観光情報を発信するとともに、海外の旅行会社やメディア(BtoB)に向けて、プロモーションや商談会を開催し、外国人観光客の誘客促進を図った。

○農泊を活用した誘客促進

農泊の受入拡大を図るため、DMO「そらの郷」と連携し、コロナ禍で受入休止した家庭への受入再開や新規家庭の掘り起こしに向けた研修会等を実施するとともに、大都市圏での学校訪問や旅行会社向けセミナーを実施した。

また、にし阿波地域における農泊の魅力やワーケーション等の新たな可能性を広く発信する「『徳島・にし阿波』農泊推進フォーラム」を開催した。

中項目2 深化する「にし阿波」魅力づくり

評価シートP2~3 (No.5~9)

(主要指標)

- DMOが造成したりアルとオンラインによる「ハイブリッド型の体験・滞在プログラムの参加者数」は令和4年度に1,045人であり、計画目標(1,000人)を達成。
- 「ワーケーション等を実施する国内外企業数」は令和4年度に15社であり、計画目標(15社)を達成。

【主な取組内容】

○体験・滞在プログラム開発の推進

「吉野川流域の今と昔を巡るツアー」をはじめ新たな「体験・滞在プログラム」を造成し販売するとともに、SNSにより観光情報発信を行い、にし阿波への誘客を促進した。

○移住定住の促進

国内最大規模の新規就農相談会「新・農業人フェア」にて、地域の魅力発信を行うとともに、にし阿波での就農・移住に興味を示した人を対象に「就農体験ワークショップツアー」を実施するなど、にし阿波への移住促進を図った。

○ワーケーション等の推進

首都圏経営者等を対象に、圏域内のコワーキングスペース視察や、サウナ体験、ポタリングツアーを織り交ぜた視察ツアーを開催するなど、ワーケーション等の推進を図った。

中項目3 地域を挙げた「おもてなし」態勢づくり

評価シートP4~6 (No.10~17)

(主要指標)

「『にし阿波』を訪れた観光客の満足度」は令和4年度に28.4%であり、計画目標(25%)を達成。

【主な取組内容】

○来訪満足度の高い「受入環境」づくり

観光地域づくりに資する人材育成を目的に「にし阿波ツーリズムカレッジ」を開催し、宿泊施設等のガイド・料理・インバウンド対応のスキルアップを図った。

○住民主体の「おもてなし」の提供

地域住民自らが来訪者におもてなしを行う「あわこい」は、知名度向上とイメージアップを図るためロゴマークを公募・選定するとともに、令和5年1月から2月にかけて感染予防対策を徹底し、58イベントを実施した。

重点項目2 豊かな地域環境の次世代継承

中項目1 美しい自然環境との共生

評価シートP7~8 (No.18~22)

(主要指標)

「『剣山サポータークラブ』の会員数(累計)」は令和4年度に804人であり、計画目標(800人)を達成。

【主な取組内容】

○自然保護の推進

地域や関係団体と連携し、自然保護や登山マナー向上に向けた啓発活動を実施するとともに、「剣山サポータークラブ」会員が中心となり、植物を守る防護ネット設置や清掃活動などの環境保護活動を実施した。

○野生鳥獣の適正管理の推進

豊かな自然環境を鳥獣被害から守りつつ野生鳥獣との共生を図るため、ニホンジカ

個体数密度推定のためのモニタリング調査及び糞粒調査を実施するとともに、新規狩猟者確保に向けた講習会等を実施した。

中項目 2 良好な地域環境の創造

評価シートP9～10 (No.23～28)

(主要指標)

「あわ産LED道路照明灯の設置基数(累計)」は令和4年度に1,317基であり、計画目標(1,030基)を達成。

【主な取組内容】

○環境に優しい地域づくりの推進

地球温暖化防止に資する省エネルギー対策を推進するため、圏域の県管理道路において、従来型照明灯と比べて消費電力を低減できる「あわ産LED道路照明灯」の導入を積極的に行った。

○豊かな自然環境を次世代に継承するための人材育成

管内小中学校において自然環境に関する出前講座を開催するとともに、実験やゲームを通じて親子で省エネルギー等を学べる「夏休みエコサイエンス教室」を開催するなど、次世代を担う小中学生をはじめ幅広い世代の環境意識の向上を図った。

○快適な生活環境の保全

浄化槽の新規設置者を対象とした浄化槽教室を開催し、浄化槽の適正な維持管理について住民の理解の促進を図った。事業者に対しては、排水やばい煙の計画的かつ効率的な監視・指導、産業廃棄物の適正処理に向けた啓発を行った。

中項目 3 環境資源の積極的な活用推進

評価シートP11～12 (No.29～34)

(主要指標)

「食肉処理加工処理頭数」は令和4年度に788頭であり、計画目標(550頭)を達成。

【主な取組内容】

○野生鳥獣による農作物被害の軽減

集落の鳥獣被害防止を図るため、防護柵や電気柵など地域の被害状況に応じた鳥獣被害防護対策を推進するとともに、集落ぐるみで総合的な鳥獣被害対策に取り組む2つのモデル集落を育成した。

○捕獲鳥獣の地域資源としての活用

鳥獣被害対策で捕獲したニホンジカやイノシシの食肉処理加工を推進するとともに、捕獲後の獣肉利用の拡大を図るため、「阿波地美栄」のPRと、「阿波地美栄」取扱店舗の認定を推進した。

○森林資源の循環利用

持続的な循環型林業の確立に向け、森林所有者等が行う伐採跡地の造林の負担を軽

減するため、「にし阿波循環型林業基金」を活用し、伐採後における植栽の着実な実施を推進した。

重点項目3 誰もが安全で安心できる地域社会の形成

中項目1 広域防災・受援体制の確立

評価シートP13~14 (No.35~37)

(主要指標)

「防災拠点である美馬庁舎と西部防災館を活用した危機事象対応訓練」は令和4年度に3回実施し、計画目標(2回)を達成。

【主な取組内容】

○防災体制の機能強化

活断層地震や豪雨による土砂災害、大雪などあらゆる自然災害に備えるため、市町や関係機関と連携し、UTM座標等を活用した図上訓練を実施した。

(※) UTM座標=UTMはユニバーサル横メルカトルの略、数字を用いて位置情報を示すもの

○広域応援・後方支援拠点としての機能強化

西部圏域の防災拠点や津波被害が想定される沿岸地域の広域応援・後方支援拠点となる「西部健康防災公園」において、防災関係機関と連携し、通信途絶状態を想定した訓練や救援物資調整訓練を実施し、防災拠点機能の強化を図った。

中項目2 災害に備えた着実な基盤整備

評価シートP15~17 (No.38~48)

(主要指標)

農林水産省指定の地すべり防止区域内等において、「土砂災害の危険度が高く、緊急的かつ集中的に保全する人家数(累計)」は令和4年度に238戸であり、計画目標(235戸)を達成。

【主な取組内容】

○災害予防対策

砂防指定地・地すべり防止区域・急傾斜地崩壊危険区域において、ハード整備を推進し、要配慮者利用施設などの保全を図った。

また、老朽農業用ため池(花園池・三好市)の改修を行い、周辺住民の生命と財産の保護を図ったほか、大雪による倒木を未然に防ぐ事前伐採を実施した。

中項目3 地域で地域を守る活動の推進

評価シートP18~20 (No.49~58)

(主要指標)

「『命と暮らしを守る』防災出前講座・訓練等の開催回数」は令和4年度に101回であり、計画目標(80回)を達成。

【主な取組内容】

○地域防災力の向上

住民の防災意識の向上を図るため、「中央構造線活断層帯直下型地震」や「土砂災

害」をテーマとする防災出前講座を開催した。

また、県立西部防災館や市町と連携し、自主防災組織活性化を図る各種研修を実施した。

○家畜伝染病対策

高病原性鳥インフルエンザの発生に備え、消毒ポイント等の防疫訓練を行った。香川県観音寺市での鳥インフルエンザ発生時（R4.11月）には、迅速に自主消毒ポイントを設置することができ、訓練の成果が発揮できた。

重点項目 4 誰もが幸せに暮らせる地域の実現

中項目 1 子どもの育ちをはぐくみ、支える地域づくり 評価シートP21～22 (No.59～66)

(主要指標)

「妊娠・出産・子育てに関する相談支援件数」は令和4年度に81件であり、計画目標(60件)を達成。

【主な取組内容】

○子育て支援

家庭訪問や不妊治療申請時など、様々な機会を活用して妊娠・出産・子育てに関する相談を実施するとともに、子育てや交流イベント開催の情報を地域住民に向けて発信し、子どもの健やかな育ちを地域ぐるみで応援する機運醸成を図った

○ひとり親家庭や発達障がい児への支援

ひとり親家庭への支援として、ハローワークと連携した就労支援等を実施した。
また、発達障がい児への理解促進を図るため、発達障がい者総合支援センター・アイリスと連携し、幼稚園や保育所等の職員を対象とした研修会を実施した。

中項目 2 心を寄せ合う地域福祉の充実

評価シートP23～26 (No.67～79)

(主要指標)

「認知症サポーター数(累計)」は令和4年度に11,914人であり、計画目標(11,200人)を達成。

【主な取組内容】

○高齢者支援の充実

住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症サポーターの養成や地域医療に関する人材の育成を行い、地域で支える体制づくりを推進した。

また、県健康福祉祭西部サテライト大会を開催し、高齢者の健康づくりや交流促進を図ったほか、シルバー大学校・大学院講座を開催して生涯学習の充実を図った。

○障がい者支援の充実

地元企業や障がい者施設と連携して、障がい者が農作物の作付けを行う「にし阿波

型チャレンジドファーム」を推進し、農業分野における障がい者の就労を促進した。

また、西部健康防災公園で「にし阿波・チャレンジドフットサル交流会」を開催し、障がい者の生きがいや健康づくりを推進するとともに、パラスポーツ振興を図った。

○低所得者層への支援の充実

市町や関係団体とともに「生活困窮者自立支援ネットワーク会議」を開催し、効果的な連携方法や先駆的な取組などについて意見交換を行うとともに、就労相談員やハローワーク等と連携し、生活保護受給者の自立に向けた就労支援を実施した。

中項目 3 健康寿命延伸に向けた地域力の向上

評価シートP27～28 (No.80～86)

(主要指標)

「圏域における糖尿病死亡率（人口10万対）（暦年）」は、令和3年度の実績値（R5.6月公表）が8.4であり、計画目標（26.0より改善）を達成。

【主な取組内容】

○生活習慣病対策の推進

運動習慣の定着や食生活改善に向け、「にし阿波・糖尿病予防フェスタ」を開催し、健康アプリ「テクとく」を活用したウォーキング教室や啓発を行った。

また、運動や食生活改善など住民の健康づくり活動を支援する出前講座や、教育機関と連携した生活習慣病予防のための健康教育を実施した。

さらに、たばこやCOPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する正しい知識の普及啓発を図るため、喫煙防止講座を開催するとともに、飲食店をはじめとする事業所への受動喫煙防止に関する周知啓発を行った。

○地域医療の充実

地域医療の課題について理解を深めるとともに、地域医療を支援するリーダーを養成するため、地域医療支援リーダー養成講習会を開催した。

また、地域医療に関する人材育成を図るため、口腔ケアや認知症、糖尿病などに関する研修会を実施した。

重点項目 5 持続可能な地域経済の推進

中項目 1 「にし阿波型もうかる農業」の確立と推進

評価シートP29～33 (No.87～99)

(主要指標)

「『世界農業遺産ブランド』認証件数（累計）」は令和4年度に96件であり、計画目標(100件)に未達。

【主な取組内容】

○世界農業遺産を活用したもうかる農業の実現

「にし阿波の傾斜地農耕システム」を核とした持続力のある地域経済を実現するため、戦略品目であるそば、ごうしゅいもの栽培拡大を図った。

また、「世界農業遺産ブランド」を新たに8件認証するとともに、認証された農産物や加工品の販売促進のため、ブランド認証品のPR・試食販売を行った。

○新規就農者の定着支援・6次産業化の推進

「にし阿波就農・移住応援隊」と連携して、就農希望者と地元農業者との「交流会」や「にし阿波就農体験ワーケーションツアー」を開催するなど、新規就農者の確保・定着を図った。

また、にし阿波地域の6次産業化の拡大を図るため、食品加工機械（包あん機、ミキサー）の導入支援をはじめとする農業経営体への支援を行った。

○「海外」市場の開拓

にし阿波の農畜産物の輸出を推進するため、FOODEX JAPAN2022でマッチングができた輸出業者と管内きくいも生産者が輸出に向けたオンライン商談会を実施した。

また、FOODEX JAPAN2023において、にし阿波の6次化商品のPRを行い、藍粉、ぶどうワイン、シトラスパイス等の商品が商談に繋がった。

中項目2 森林・林業を核とした「地方創生」

評価シートP34～35 (No.100～No.104)

(主要指標)

「素材生産量」は令和4年度に225,495 m³であり、計画目標(253,000 m³)に未達。

【主な取組内容】

○地域材増産体制のさらなる整備推進

地域の林業事業体や木材関連会社の活性化を図るため、一体的でまとまりのある事業地確保や高性能林業機械の導入及び稼働計画の作成に対する支援を行うとともに、林業事業体や林業担い手の育成を推進した。

また、林道を核とした路網整備に加え、林道を補完し生産効率を高める林業専用道等の林内路網の整備を促進した。

○将来に向けた担い手の育成

次代を担う子ども達に森林及び林業への理解を深めるため、管内小中学校での森林林業教室や管内開催イベントにおいて「移動木育広場」を開催するなど、木育を推進した。

また、林業就業者の確保や育成を図るため、林業事業体と連携し、管内高校を対象とした出前授業やインターンシップ及び就職ガイダンスを実施した。

中項目3 国内外との交流を通じた商工業の振興

評価シートP36～37 (No.105～108)

(主要指標)

「サテライトオフィス等誘致企業での雇用者数(累計)」は令和4年度に127人であり、計画目標(120人)を達成。

【主な取組内容】

○新たな地域連携ビジネスの創出

「にし阿波・地域連携ビジネス創出支援事業運営協議会」において、地元事業者 2 者と連携し、木製雑貨（筆箱）及び麴サブレの新商品を開発した。

また、首都圏等バイヤーとの商談会の開催により、販路開拓に向けた支援を行った。

○地域特産品づくりと販路開拓

にし阿波ならではのブランドである「千年のかくれんぼブランド」商品を新たに 14 品認証したほか、認証商品の PR と販路拡大を図るため、東京をはじめとする国内 9 イベントで販売・展示を実施した。

○企業誘致活動の推進

首都圏経営者等を対象に、圏域内のコワーキングスペース視察や、サウナ体験、ポタリングツアーを織り交ぜた視察ツアーを開催するなど、にし阿波の認知度向上とサテライトオフィスの開設（R4 年度 2 社開設）に寄与した。